

ビジネスクリエーター研究学会
2012年12月2日

ビジネスクリエーションに関する日本の義務教育の課題と展望
～シンガポールの教育制度から鑑みる～

R. C. Bennion 代表
奥村幸治

目次

はじめに	3
シンガポールの教育制度	3
Primary School の現状	7
Secondary School の現状	11
Junior College の現状	22
考察	27
参考図書	31

はじめに

当調査の目的は、シンガポールにおける教育制度、カリキュラムの内容、学校教育の目的からビジネスクリエーターを生み出すために必要な学校教育環境に関して示唆を得ることにある。調査の方法は、現地の学校（日本の小学校、中学校、高等学校、専門学校に該当する学校）の訪問、クラス見学、教師等からの聞き取り調査によって実施。今回は特に上記の学校における母語教育（language arts）に焦点を当てて、学生の言語能力強化の観点から考察する。

シンガポールの教育制度

① デモグラフィックデータ

シンガポール政府の年間教育予算 97 億シンガポールドル（約 6,173 億円）GDP の約 3.5%

学校 356 校

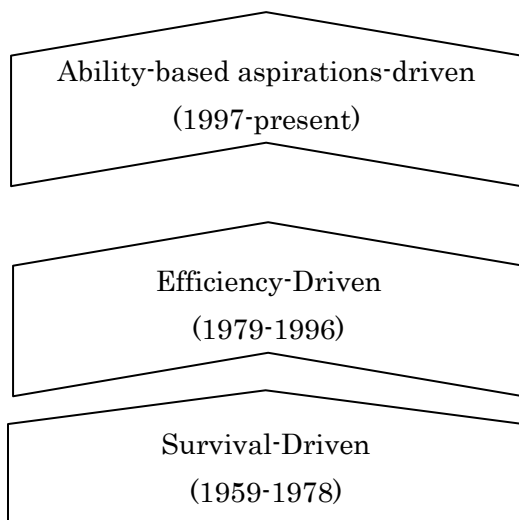
学生数 528,000 人 (Pre-Secondary Education Institutions)、153,000 人 (Post-Secondary Education Institutions)

教師の数 27,800 人 (Pre-Secondary Education Institutions)、11,900 人 (Permanent academic staff, Post-Secondary Education Institutions)、13,500 人 (Permanent non-academic staff, Post-Secondary Education Institutions)

教師

- ・ 大学教育に入学する前の段階で、上位 30%に該当する学生が教師の道を選択
- ・ 大学卒業後、教育現場に行く前に National Institute of Education にてトレーニング受講
- ・ 年間 100 時間に及ぶトレーニングを無償で受講可能（トレーニング受講時は代替教師が授業を行う）

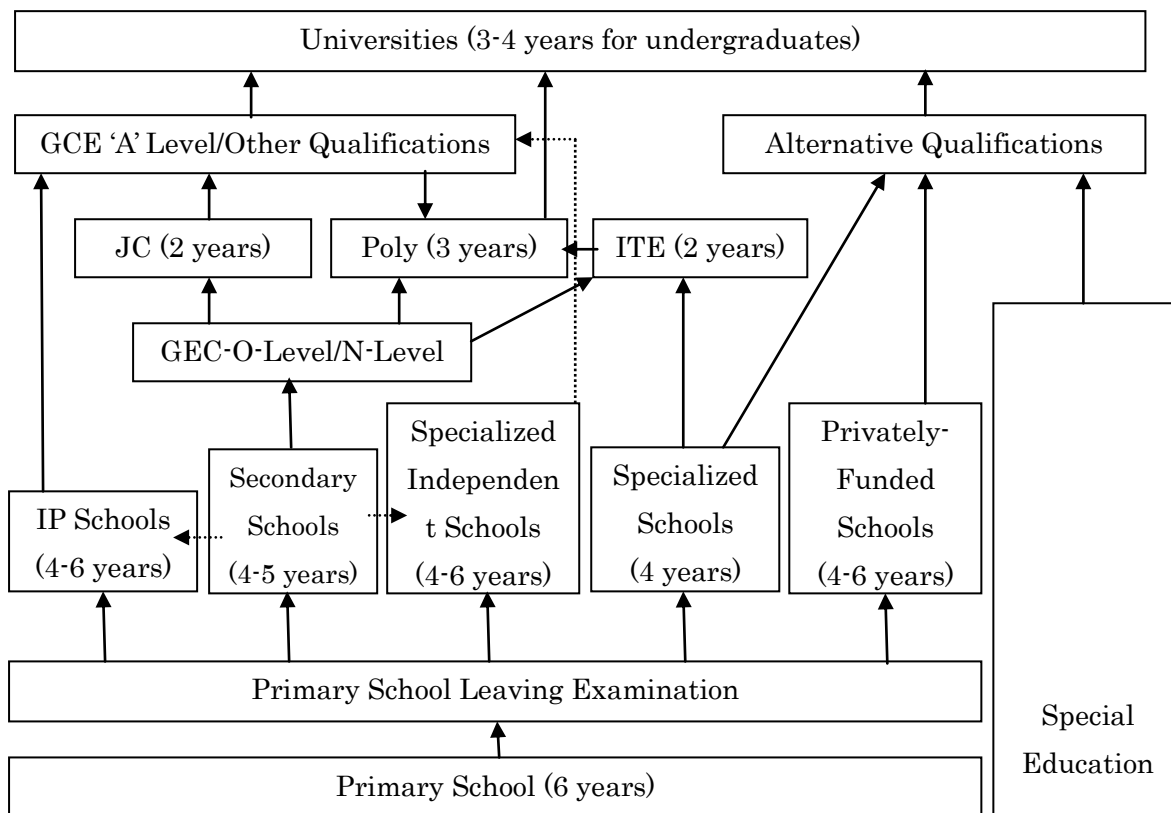
②シンガポールの教育概念の変遷



- Flexibility and diversity
- Top-down support for ground-up initiatives
- Developing further peaks of excellence in different areas
- Ability-based streaming introduced
- Independent School
- Autonomous Schools
- Building a national education system
- Bilingual policy
- Vocational and Technical Institutions

シンガポールにおける英語教育は、**Survival-Driven** の時期から始まり、すでに実施 50 年以上経過している。英語教育は、**language arts** の授業で行われ、生徒は一週間に 9 セッション（セッション/40 分）授業を受ける。また、生徒が自宅で話すローカル言語（**Malay, Chinese, または Tamil**）も英語と同数の授業を受けている。シンガポールの教育体系や授業内容は、国家戦略と合致させてきた。例えば、製造業を主体とする産業を推進する時代には、製造業のエキスパートを輩出できるような教育制度を整えるなど、その時代のニーズに応じて、シンガポールは教育戦略を変更してきたのである。

③シンガポールの教育体系



上記の教育体系図で示しているように、シンガポールの進学パターンは多岐にわたっている。個々人の希望、能力に沿って複数の進路が備わっており、日本のようにほぼ全員が進むスタンダードで限定されたパスだけではない。日本の小学校に該当するのが **Primary School** だが、卒業試験の結果で進路の選択に幅が広がってくるようになっている。前提となることは、英語の試験結果が悪ければ進学することは不可能なこと。日本の中学校と高校を合わせたようなものが **Secondary School** レベルの教育になる。学生は将来の職業を視野に入れて **Secondary School** 以降の進路を考えながら勉強する。大学に進学する場合には **GCE A** レベルを目指して国家共通試験をパスする勉強もしなければならない。とは言うても、**Secondary School** では、試験で高得点とれるように日ごろから様々な分野の能力を高められるようなカリキュラムになっているため、授業で高い成績を修められれば、試験の結果も自ずとついてくるようになっている。

④近年に見られる教育戦略

“Teach Less, Learn More” ‘Schools are providing more opportunities for the character development of their students and for students to develop skills in innovation’ (パワーポイント資料、Fairfield Methodist Primary School, Jan 17, 2012) とあるように、学校で

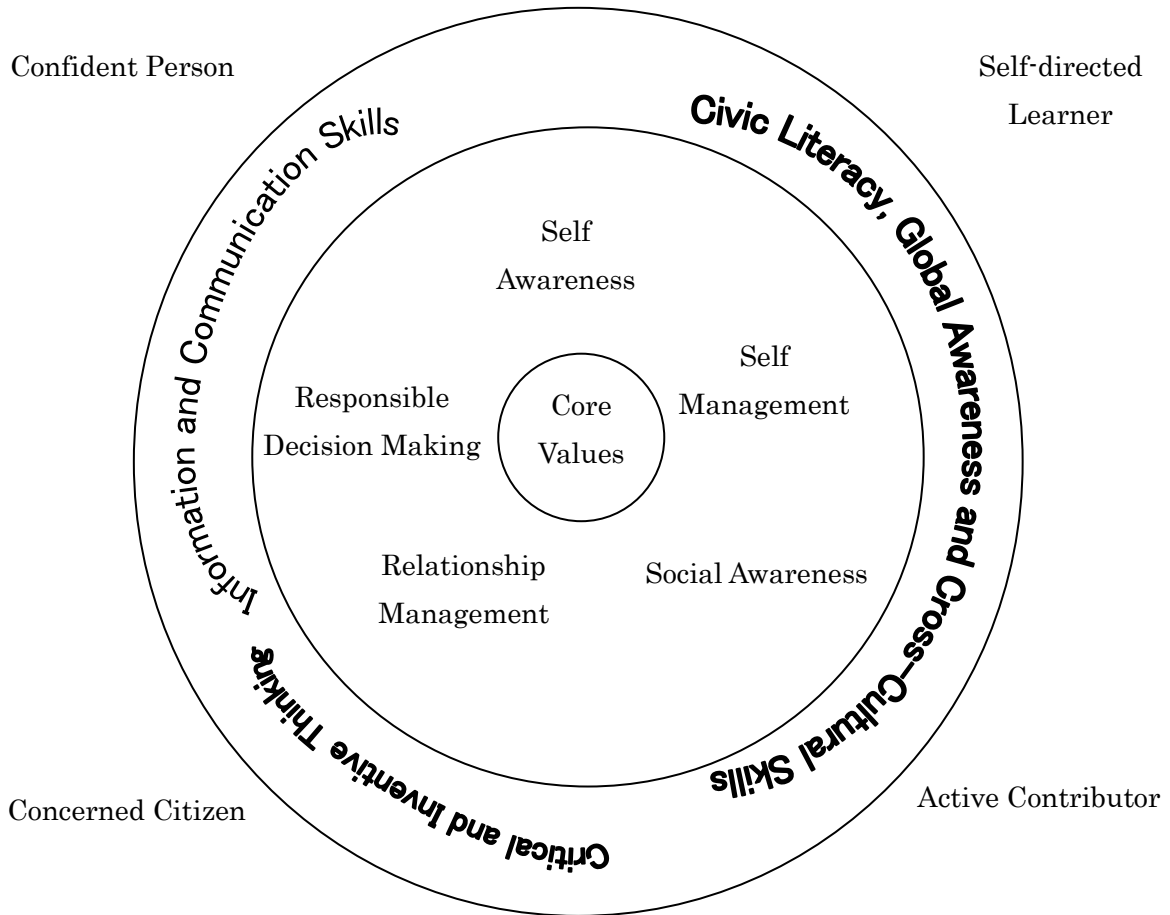
は、個々の生徒の特質を高め、創造力を発揮できる機会を提供しようという傾向が強まっている。若い頃から専門性を追求できる学校が増えてきていることは、学生の将来の人生設計を行う際に有利に働く。学生が選択できる方向性の例として、Assumption Pathway School, School of Science and Technology, School of the Arts, Singapore Sports School, NUS High School of Math & Science がある。

下の図（Enhancing the Development of 21st Century Competencies）は、21世紀の人材コンピテンシーについて書かれた絵で、子どもたちをどのような人間に育てるのか、具体的なコンピテンシーに基づいて記している。5つのコア・バリューが土台になり、大きく分けて3つのスキル（Civic Literacy, Global Awareness and Cross-Cultural Skills, Critical and Inventive Thinking, Information and Communication Skills）を身に付けることで、社会に貢献できる人材を輩出する仕組みになっている。スキル育成方法についてはかなりの部分をローカルでの学校に委任されている。

この戦略を推進するために、Primary Education の質の向上が掲げられている。例えば、

- ・子どもたちに自信をつけされる：自主的に学び、ケアできる市民になるように準備する
- ・MOE より Recommendations of the Primary Education Review and Implementation (PERI)発行

- ・生徒のスキルとバリューとのバランスをとる教育を目指す
- ・教師の質向上（現場の OJT を含む）
- ・インフラの整備（シンガポールの学校には、各教室プロジェクターとスクリーンが完備されており、教師はノートパソコンを使って授業を行う。それとは別に、学校に IT ルームがあり、そこでは、eラーニングが進められている。授業の教材として販売されている市販のソフトを使用する場合もあれば、学校専属の IT 専門技術者に依頼して、授業用にプログラムを作成してもらった場合もある。IT ルームには生徒一人ずつノートパソコンが備え付けられており、ときには、i-pad を使用して授業が進められる。生徒には ID とパスワードが与えられ、宿題をする際に自宅の端末からウェブにアクセスして作業できるような仕組みになっている。ある Primary School の IT ルームには、Mac のノートパソコンが配備されていた。教師は PC を使用して、頻繁に動画や音声の入った教材を活用するため、よりリアルな例をタイムリーに生徒に提示している場面が授業見学の中で多く見られ、高い学習効果を修めている様子であった。



Primary School の現状

① Primary School の体制と扱う領域

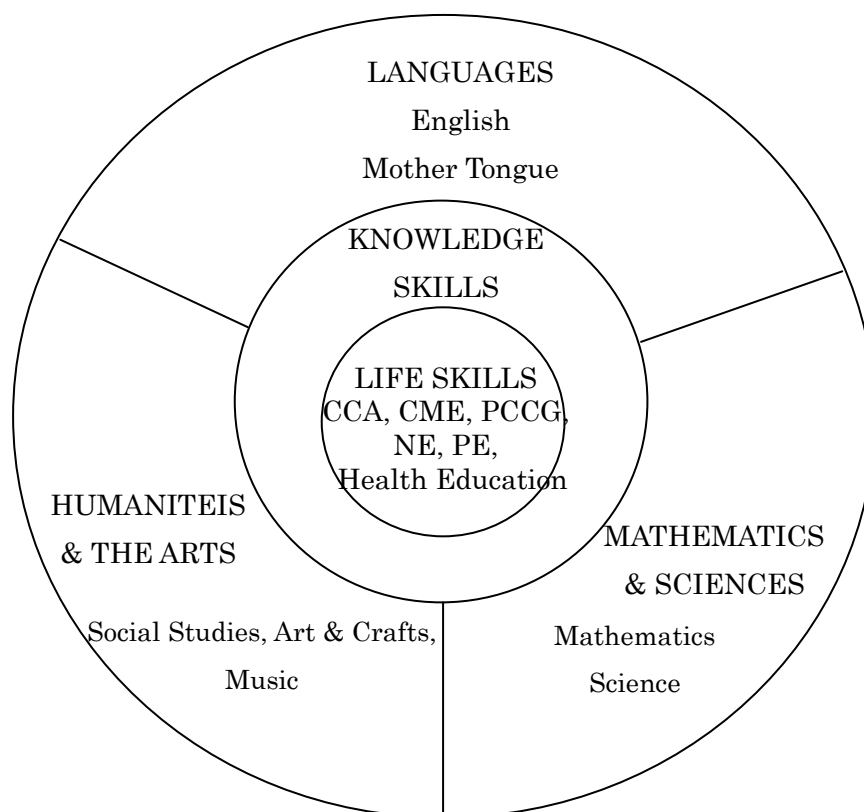
義務教育

・学年 Primary1-4 (Foundation stage) と Primary 5-6 (Orientation stage) に分けられている。

卒業前に国家試験 (Primary School Leaving Examination: PSLE) を受験。その結果によって、進学先の幅が決まる。

・在学中、Co-curricular Activities (CCAs) [日本の部活動] と Community Involvement Program (CIP) [地域で行うボランティア活動]への参加が奨励されている。

次の図は Primary School で教える領域を示した図である。



略字説明

CCA: Co-Curricular Activities

CME: Civics and Moral Education

PCCG: Pastoral Care & Career Guidance

NE: National Education

PE: Physical Education

PW: Project Work

卒業前の国家試験（PSLE）は、English, Mother Tongue, Mathematics, および Science の質問で構成されている。

② 授業見学ノート

A. 教育について

学校：Fairfield Methodist Primary School

対応していただいた教師：Mrs. Cecilia Lee (Head of Department/English), Mr. David Yong, Head of Department/Special Projects

シンガポールには Primary と Secondary School を合わせて 350 校程度ある。通常、授業

では教科書は使わず、教師がノート PC で作成した PPT や視聴覚資料を使用する (Stellar approach)。教師向けのトレーニングも優れており、香港の教育制度に類似している。生徒の 80% は、自宅で英語を話す。1 クラスの生徒数は 40 名で、日本のホームルームは存在せず、教師が教室を移動する仕組みになっている。

各学校にはハンドブックがあり、その中には日本の学校で行う身体測定の結果を記録する欄を含め、授業で扱う全領域の活動計画リストや結果を記録するページが含まれる。なによりも、ハンドブックの初めの項目に、学校のモットー、信条、哲学、ミッション、ビジョン、バリューなどについて書かれていることは驚きである。日本の学校でここまで明確にしているところはほぼ皆無であろう。企業にある社訓やビジョン、ミッション、バリューを思い出させる。このような内容がすべての学校のハンドブックに記述されており、特に、ビジョンとミッションはシンガポールの国家戦略と合致しているようだ。小学生から大学に入学するまでこのような基礎概念を植え付けられた子どもたちは、明確な目的をもって教育を受けることができるに違いない。

B. Language arts について

English Department には、25 名の教師がいる。全校では、88 名のスタッフ。非常勤、契約講師、アルバイトなどを合わせると 100 名程度の教師がおり、そのうち英語のクラスを教える教師は 50 名程度。コアカリキュラムは MOE で作成され、各校でローカライズを図る。スタンダードのセッションは保持しなければならないが、教材は自由に作成しても良いことになっている。

Language arts は、一週間に 9 sessions (1 session 40 分) 行われる。ローカル言語 (Malay, Chinese, Tamil, English) もそれぞれ毎週 9 セッション実施。Science は毎週 4 セッション。元来、P3 から science を教えていたが、この学校では、P1,2 から Language arts で science の領域を取り入れている。

シンガポールは、Language Arts と Mathematics に力を入れて教育している。

Teaching Meeting で、レッスンに関して他の教師と情報を共有する。学校には、reporting officer が存在し、各教師の Performance appraisal を遂行するための報告を書く。教師の力量を把握するために、Lesson observation, Peer observation が年に 1 回実施される。

教師のキャリアとしては、Management、Veteran teacher、および Specialist (中央機関でカリキュラム作成等を行う) に分かれる。教師は、教育学部を卒業後、National Institute of Education で 10 週間のトレーニングを受けて、各校に配属される。

C. Oral Speaking P6A の授業 (時間 : 11:00-11:50)

Teacher: Mr. Goh Sheow Ern

PC ルームの一室を使い、生徒 22 名がそれぞれノート PC 一台使用して、読書の練習をする。Marshall Cavendish Online というプログラムを使用 (この学校はこのプログラムを購入して使用している) Primary 6 English Oral Buddy という名のプログラム (これ以外にも、外国語、数学、科学のプログラムもある)

各生徒はそれぞれ ID とパスワードがあり、プログラムにアクセスすることができる。教師は、生徒のプログレス、グレードを画面上で確認することが可能。

PC ルームは 3 教室。そのうち 1 教室には、Mac のノート PC が備えられており、コントロールルームにはテクニシャンが常駐している。教師に一台ノート PC 与えられている。基本的には小学生でも PC が使えられるように訓練されている。高学年になると、i-pod を使った授業をする。IT ルームには、テクニシャンがいて、高度な録音・録画、i-pod などのハイテクを使った授業の準備の助けをしている。

まず、教師が、プログラムの使い方を説明。このプログラムには、Listening, Reading の機能が付いており、まずは、Listening の機能を使って内容を聞く。そののちに、各自、マイクを使って画面の文章を読み、自分の声を再生して聞く。ワークシートが事前に配布されており、教師はハイライトを強調する。自分の声を録音する際に、セルフチェックシートを配られて、自己採点するようになっている。

※6 年生であるが、集中力が高い。熱心に engage する。自分の意見や質問をはきはき発言する。

D. Adjectives of Manner P2H の授業 (時間 : 11:50-12:30)

Teacher: Ms. Fazylla

ビデオ、PPT、カードゲームを使って助動詞の使い方を勉強する。

スライド

Your responses . . .

1. I can hold the ... carefully.
2. I can walk slowly and stand on the table.
3. Betty stood on the table unsteadily.

スライド Sentence Structure

Subject Verb Adverb

I hold carefully

I walk slowly

Betty stood unsteadily

スライド Adverbs of Manner

まず、スライド上段の絵を見せる

絵 絵

excitedly carefully

次のスライドは、文字だけ記載されていて、教師は生徒に言葉の意味を聞く

例 : noisily, safely, hurriedly, happily

カードを使った演習

3 blue cards (score cards) 活動した人の評価を点数で書く

10 yellow cards (shuffle the cards in advance) Verb

10 orange cards (shuffle the cards in advance) Adverb

テーブルごとにプレー

とても盛り上がっていた。2年生だから、体を動かしたゲームはとても人気がある。体を動かしながら学ぶ方法。教科書はない。教科書を読んで学ぶというよりも、まずは、例を出して見て・聞いて・触れてから、エッセンスを教えてもらう方法。

Secondary School の現状

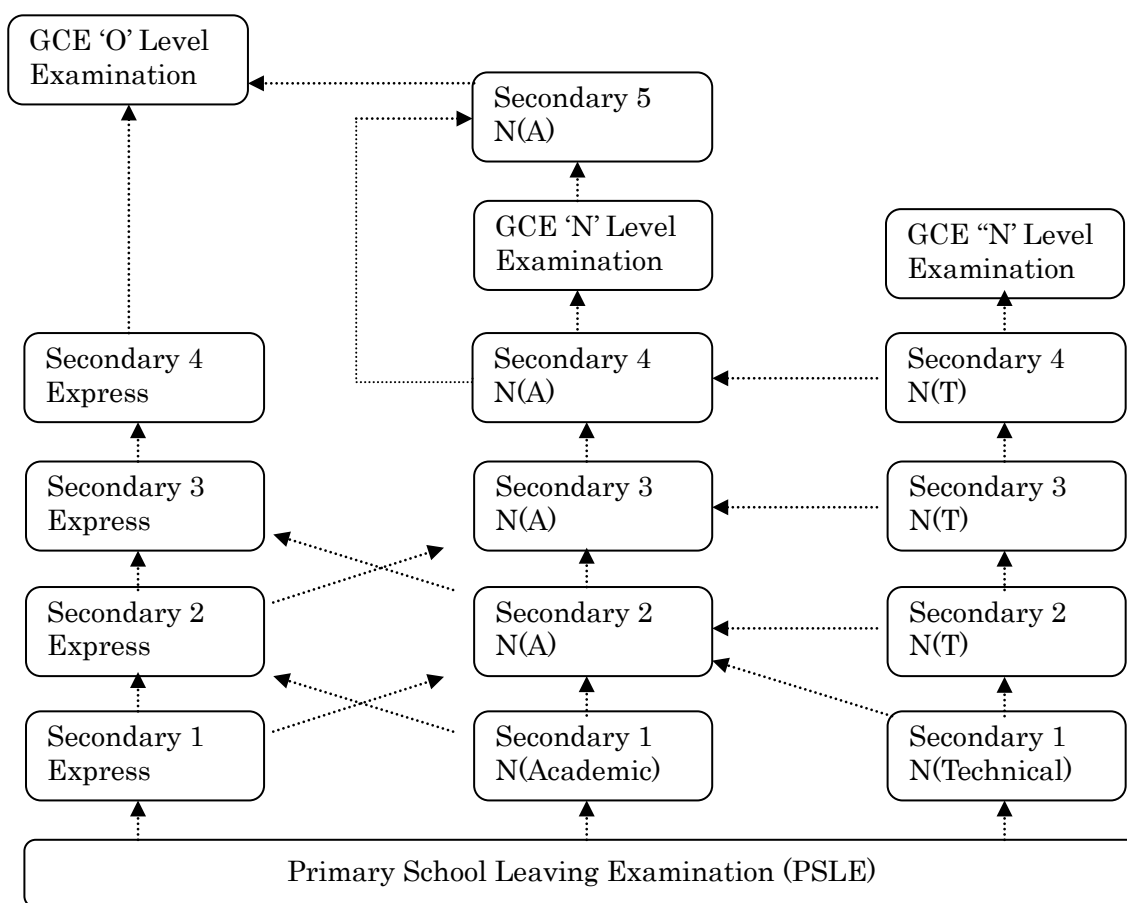
① Secondary School の体制と扱う領域

年数 : 4年間コース (Express and Normal [Technical] courses)

5年間コース (Normal [Academic] course)

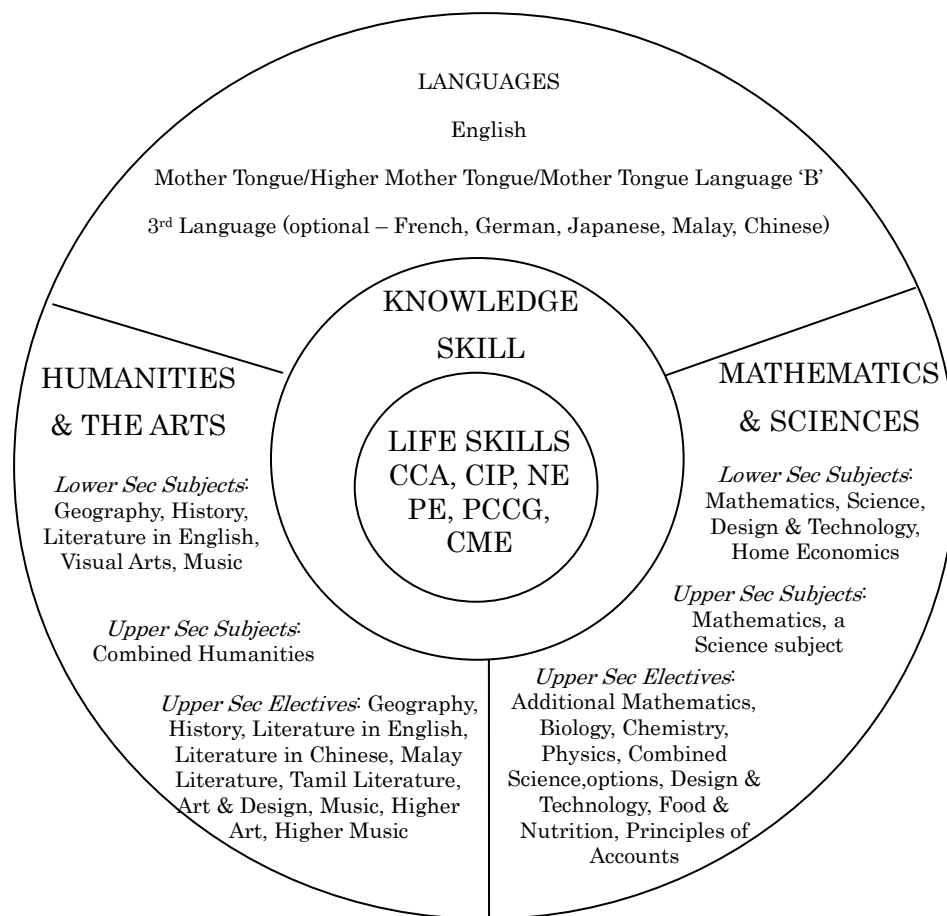
Secondary 1 入学年齢 : 13 歳

Secondary School の構造



Secondary School には、Express, Normal Academy, Normal Technical というコースに分かれているものの、途中でコースを変更することが可能になっている。

次のページに示す図は Secondary School で教える領域を示した図である。言語教育のところで、English, 母国語に加えて、第三言語をオプションで取ることができるようになる。また、Humanities & the Arts, Mathematics & Sciences でも上級者向けのコースが複数用意されている。



略字説明

CCA: Co-Curricular Activities

CIP: Community Involvement Programme

NE: National Education

PCCG: Pastoral Care & Career Guidance

PE: Physical Education

CME: Civics and Moral Education

PW: Project Work

③ 授業見学ノート

学校 : Chong Boon Secondary School

Secondary 4NA の授業 (時間 : 8:00-9:00AM)

対象者 : 16 years old and above International Students from China

参加者 : 12 名

講師は中国人で、英語を教えている。授業は全て英語。辞書を使わせないで進める。今年、ナショナルテストを受けないといけないので、詰め込み式で英語を教えている。中国から来た生徒は、英語のハンディがあるので、テスト結果が悪く、シンガポールに残っても、良い大学には行けないため、このテストをなんとかクリアして、アメリカやUKにわたる人が多いという。本来は全校のアセンブリがある時間にこのクラスはスタート。全校のアセンブリは週三回英語の文章を読む練習に充てている（15分）。昼休みも全校生徒が集められている。全校生徒は750名程度。

B. Secondary 2TA の授業（時間：9:30-10:30）

対象者：14 years in a Normal Technical Class

生徒数：37人

3人の教師による指導

Teacher 1: Adjunct Teacher（以前 National Institute Education にいた人）

Teacher 2: Allied teacher (Teacher の資格はないが、アシスタントする人)

Teacher 3: Discipline teacher (クラスを持っていないが、全校を回って生徒が集中し授業を聞いているか見て回るスペシャリスト)

このクラスは、レベルで言うと一番低いレベルのクラス。インド人が多かった。子どもを見た目で判断するのは良くないことだが、能力的に落ちて、やる気がなさそうな子が多かった。

PPT を駆使。音声も取り入れて、テキストを使う時はオーディオを使って、視覚と聴覚を使って、生徒に学ばせている。

C. Secondary 3E1 の授業（時間：11:30-12:30）

対象者：15 years old in an express class

Express class の中でも能力の高い生徒を集めたクラス（2クラス combined）38名

感想

クラスは高1の生徒。おしゃべりも多いが engagement level は高い。日本の高校のような印象を受ける。Framework を教え、生徒が実践するパターンを取る。生徒の application skill は高くなる。常に考え、学び、真似、より高みを目指す方法。

D. Secondary 1E2 の授業（優秀な生徒対象のクラス）

対象者： 13 years old in an Express (English literature) Class

参加者： 16 名

Class Diary

映画を例題に取り上げ、映画のジャンルによって、Plots, characters, settings, words がどのように変わるかを生徒に考えさせる。

You Tube を使って、いくつかの映画の preview を見せて考えさせて、発言させる。

GENRE

例 1 Born Identity

Action, Thriller

教師問いかけ： What makes fantasy?

感想

教師、生徒間のダイアログは活発。教師は、good questions, stimulating questions を連続して生徒に投げかける。生徒はあきない。

E. Conversation with Ms. Kelly Cho

今年から、Secondary1-3 のシラバスが新しくなり、テキストを使うことになった（テキスト購入）内容は、目的ごとにインデックスさるされている。10 年に 1 回程度、シラバスが変更になる

CCA (Core Curriculum Activities) 3:10-5:30pm 日本で言うクラブ活動。先生も担当する。

Secondary School では、10 の Subjects を学ぶ。Secondary 3 になると 6-7subjects に減り、ここで、コースは streaming される。

Split class (40 人のクラスを半分に分けて講義を行う方式)や Bending class (3 クラス合同でレベル毎に 3 つのグループに分けて半年授業する)の形式をとり、Bending Class の場合は、能力を測定してグループ再編成する。

大まかだが生徒は、Express (60%の生徒)、Normal Academic (30%)、Normal Technical (10%)に分かれる。English が 1st language, Mother tongue が mother tongue として扱わ

れる。Special stream の生徒の場合、English も mother tongue も 1st language として扱う。

この学校には 70 名のスタッフ。50 名 teacher, 14 名の adjunct teacher。Adjunct teacher は、MOE から派遣される。各校必ず Adjunct teacher があてがわれる。英語の教師は 15 名。各教師は 2 subjects 教える。フルタイムの教師は 9 名のみ。通常、大学卒業後、NIE で 4 カ月訓練を受け、その後、4 カ月 on site で practicum。シンガポールでは、教育学部に在籍中、一月 2,000SD 支払われる。3 年間教師をすれば全額政府に返却しなくても良い。一週間の実教育時間は 20 時間。この学校には教室にマイクは無い。プロジェクターは全室完備。

学校 : St. Margaret's Secondary School

English Language Sec 4 Express 5 の授業 (時間 : 11:35-12:45)

参加者 : 38 人

教師 : Mrs. Lucy Seet

White board

One way I intend to get smarter

資料 : Newsweek 最新号 (Jan 9 & 16, 2012)

“31 Ways to Get Smarter-Faster”

5 つの記事から一つ選んで Journal に記録させる (5 分) 毎レッスン Journal を 5 分書く時間を取っている。毎回、生徒の Journal を回収することはないが、ペアワークの時に生徒間で見せ合ったり、ノートに貼って提出させるような活用方法。

TED (Technology, Entertainment, Design)

- ・ Article を paragraph 毎に番号をつける。18paragraph, 9 グループ。各グループ 2paragraph.
- ・それぞれの paragraph に key idea を見つけて用意された用紙に書いて、後で、ホワイトボードに貼ってグループ毎に発表。
- ・ Paragraph 1, 2 から始め、紙に書いている内容を読んで、内容が正しいかどうか生徒に問いかける。

このクラスでは、教科書は使っていない。

Secondary 4, 5 は、学校で Newsweek を購入し、それを授業で使用。

学校 : Nanyang Girl's High School

English Literature の授業 (9:45-10:45)

参加者 : 23 人

教師 : Miss. Sara Birchwood

Transactive writing (Functional writing: informative, analytical) と Novel との違い

資料 : 黄色の紙 "My Father Died for Pakistan" 白い紙 "this believe"

Activity

1. Read one article silently
2. Summarize it to your partner
3. What is the writer's purpose?
4. Which one is personal writing and transactive writing?
5. What feature do you see?

Distinctive features of personal and transactive writing.

Look for evidences. Teacher: Look for differences. They are quite subtle.

10 minutes. Students need to write answers in details. Find supporting facts.

ペアワークと発表

<u>Personal</u>	<u>Transactive</u>
Emotional	Factual
Personal reflective	More in detail
Universal truth and more relatable	Motivational
	Informative
	Commanding tone (textual evidence)

+Find quotes, evidence

教師 : narrative だけれど何故 personal writing に留まっていないのか?

-Narrative Yellow one->global issue に展開している

-Which one is more interesting?

-What is a propaganda?

最後に資料を使って教師が解釈している

<u>Personal</u>	<u>Transactive</u>
Reflective	Persuasive
Anchors in personal experience	Anchors by information
Personal opinion	Third person
Subjective	Objective
Don't need references	Based upon facts

教師 : What does Pakistan's writer want to do?

Democracy VS Dictatorship

Wants to promote democracy

感想

面白い演習。生徒に考えさせる授業。読書力、説明能力、創造力が必要になる

Philosophy Class の授業 (時間 : 8 時 45 分~9 時 45 分)

教師 : Mr. Clement Huang (Co-Teacher は、Ms. Chia Hui Ping)

アメリカの大学で Philosophy の修士号取得。シンガポールで教育学の学位は取得していない。

初回の授業

参加者 : 23 人 Upper Secondary Class, Optional Class

Talent Development の位置づけで、Humanity Path の人が選ばれて参加

A Level に上がる人が取得するコースなので、参加者のレベルは高い。哲学といえども、Critical Thinking Skill を伸ばせるようにしている。

- ・まず、教師に対して何でもよいので生徒に質問を聞く
- ・教師からの問いかけ : Are you same as you were yesterday?

スライド

The love of wisdom (Philo=love, sophical=wisdom)

The search for meaning

Philosophy を学ぶことによって、Think Smart、Critical になれることを強調

- ・教師からの問いかけ : Purpose of life とは？

- ・ Materials とは？ Determinism と Free will との関係について考えさせる。
- ・ 例：自分が何故教師になったのか？ 教師になるべく生まれてきたのか？

スライド

Goal Setting

To be able to distinguish between philosophical questions and other kinds of questions
(教師は必ず生徒に問いかける)

To be able to think deeply what various philosophical issues, and come up with reasonable answers to them. Ex. completely surprise test

例：2人が教師にけん銃を発砲した。どちらが殺したか？誰にその責任があるのか？ケースを使って学生に問いかける。

教師は、生徒に考えさせて答えてもらう（1/3の生徒は教師の質問に反応して声に出して答えるが、その他の生徒は発言は無いが考えていそう）

例：Video The Open University

- ・ アキレスとかめ
- ・ 祖父を殺せばあなたはなくなるのか？パラドックスについてのレッスン
(物理の授業と関連させている)
- ・ ある人が中国人・中国語を理解するために本だけ読んで理解しようとした。Chineseを理解するには、本だけで理解できるものなのか？そんなに mechanic にできるのか？体のどの部分が中国語を理解しているのか？脳なのか？Neuron なのか？

スライド

Form group of 6, and identify the philosophical questions explored in Chapter 1 of Sophie's World.

Jot down the non-philosophical questions in a separate column.

生徒は各グループで話し合い、フリップチャートに記録する。

1Hの授業をいくつかの activity に分けて進めている。生徒が飽きないように工夫。Audio visual 活用。グループワークあり。

- ・ 各グループのサンプルアンサー (写真撮影、フリップチャート)

Who are you?

Where does the world come from?

Was there life after death?

Surely a person was> a piece of hardware

次回までのアサイメント

- ・ What philosophical question are most interesting to you?

ホームルームではないクラス使用。30名程度収容可能。ノートPC、テーブル4、移動可能な椅子、ホワイトボード、スピーカー、プロジェクター、フリップチャート、オーバーヘッドプロジェクター。教師いわく、ホームルームの方が設備はより整っている。

Language Arts の授業 (時間 : 9:45-10:45)

教師 : Sara Birchwood

前回の講義資料 : this believe (Bond Buddy), My Father Died for Pakistan (The New York Times)

6つの質問に対して1つ質問を選んでその答えを紙に書いて、クラス全員でシェアする

- ・ 中学生・高校生の内容としては何度の高い内容だが、全員考えて答えを書いている。どの質問も面白い視点を投げかけている

作業の時間は20分。その間、なかなか筆が進まない生徒に対して教師が書くヒントを言う。

“Fear of writing right things” Overcome するには、1) Scribble, 2) Mind mapping, 3) Summarize what I write

教室の中に、1-6番の答えを書いた紙を置く場所を作り、他の生徒の答えを読む時間を与える (7分)

Choose 1 favorite and think 3 specific reasons (why they are effective personal writing) なぜそれが、effective personal writing であるかは、strength of voice の程度で分かる

*参加型の演習 (短時間で考えて答え、そして、人の文章を読んで学ぶ)

各グループ、1人代表でどの文章が好きだったか発表する。OH でその文章を映し出して、全員が見れるようにする。紙には氏名は書いていない。

その間、教師は文章を読みながら、いくつか生徒に質問する。例 : 何故、personal anecdote だと分かるか?

Post-Class Discussion

教師 : Sara Birchwood, Clement Huan

・当学校にはシンガポールのトップ 3%の学生が入学してくるエリート校（中国系の学生が多い）シンガポールには、私立の Secondary School は 6 校。

PSLE の結果が良い人が入学できる。Gifted Education Program から来ている学生もいる。

・私立だが政府がコントロールしている。学費は一学期 200SD くらい

・ Language Arts は、チームでカリキュラムを作成。チームは 6 名の教師で構成。2ndary School 1-4 level. 1 level には 400 名の生徒。13 クラス（各クラス 30 名程度）。全体で 1,600 名。

・ English Department には 30 名教師。全体で 100 名以上の教師がいる。

・ Home Teacher 2 名。1 人がメイン Home teacher。

・教師になるには、シンガポールで教育学の学位 (diploma) 必要 (Singapore の Public School で教えるためには) 私立の場合はその限りではない。

・この学校では、English、Chinese を週に 4 時間教えている。Chinese が mother language で、English が Second Language. Third language は、学校の許可を得て、校外で学ぶ。

例 : ヨーロッパ言語、アジア言語。

・ Upper Secondary の生徒は、アドバンスクラスの授業を受ける (English Literature, Philosophy, など) Stream (Humanity, Science/Mathematics) に分かれて、必要なクラスを選択していく方法。ただし、成績が良くないとアドバンスコースは履修できない。

・ Stream 毎に、Talent Development を行う。指標としては、Academic performance, Passion, Leadership Skill, Personal characteristics

・大方の生徒が A Level School に入学。この学校では、Hura Chong Institute に入学。兄弟校があり、Secondary Level では男子学校。そこの A Level School では、共学になる。この学校では、16 歳の時に National Exam を受けなくて校内の試験で合否が決まる。審査に漏れた人はドロップアウト。他の、Junior College, Polytechnic School に行く。

日本で JET プログラムを経験した Sara さんの話

Japan: Rely on textbook. Grammar, Writing 重視

Singapore: Government spends a lot of money in education

Students enter into school to become better (expectation toward education is high)

Balance in between results and learning (School vision/direction is very clear)

Fast pace (fast implementation) School management always look for new ideas and are quick to implement those in school. Teachers are allowed to try new things and get help.

Singapore の Grade Level by Age

- A. Preschool
- B. Primary (8-12)
- C. Secondary (12-16)
- D. A level, Junior College (16-18)
- E. University (18-)

Pre-University Education (Junior College)の現状

① Junior College の体制と扱う領域

年数：2-3 年間コース

年齢：17-19 歳

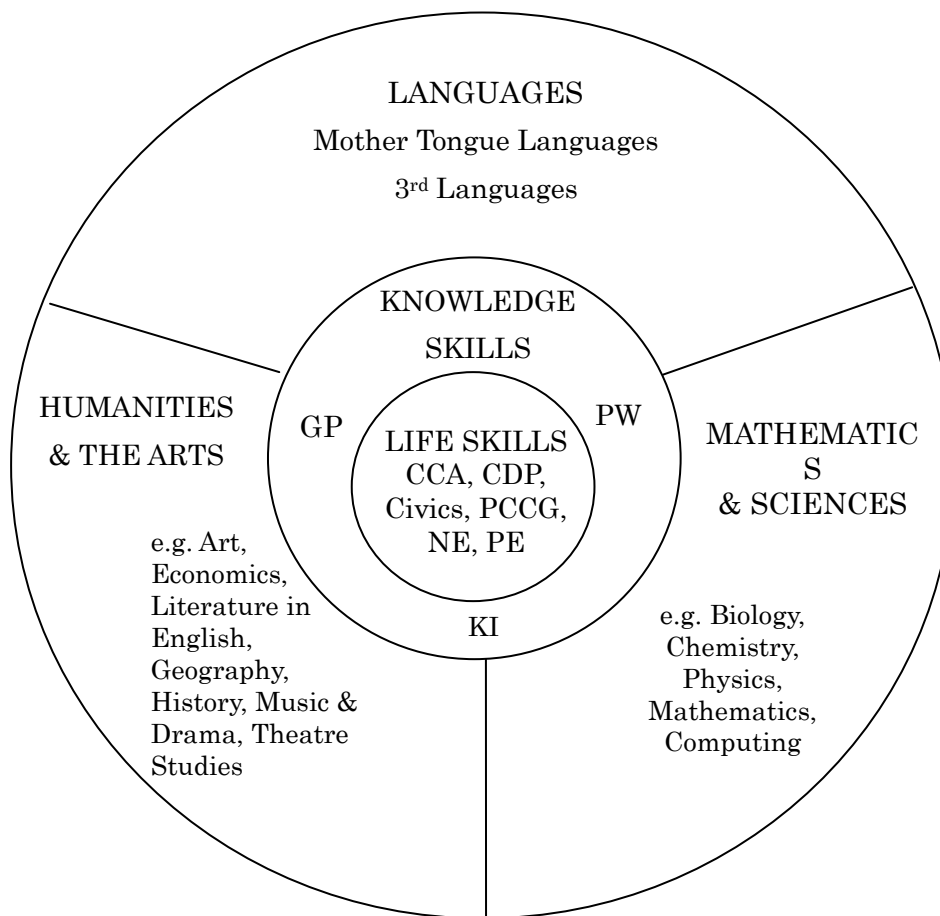
Higher 1 (H1) Level: 大学教育の準備クラス H2 の半分の領域。専門性は H2 と同レベル

Higher 2 (H2) Level: 大学教育の準備クラス

Higher 3 (H3) Level: より深く専門性を磨くクラス

通常、学生は 3 つの H2 クラス、1 つの H1 クラス、母国語、**General Paper** とプロジェクトを履修する。やる気のある学生は H1 または H2 クラスからもう 1 クラス、または H3 クラスを 2 クラス履修することができる。

次に示す図は **Junior College** で教える領域を示した図である。言語教育のところで、**English**, 母国語に加えて、第三言語を履修するようになっている。どのクラスも大学教育を受ける準備コースとして位置づけられているため、上級向けコースになっており、難易度が高い。



学校 : Anglo Chinese Junior College

General Paper (Sociology と English Writing が混合したもの)の授業

教師 : Ms. Ong Leh Hwa

参加対象者・人数 : 17-18 歳 共学 20 名

Tue Functions of the Media

Wed Media Ethics

Thursday Power of the Media

Friday Resource File

教師 : Last Week に何を学んだか?

Vocabulary

Resource file

GP Pkg

4 列：席は自由

アサイメント：メディアの役割

ノート交換

記録をホワイトボードに書く

Entertainment

Marketing

News

Information

Autistic showcases

Advertisement

Profit

教師：To what extent can we trust e-media?

Shattered Glass：ニュースクリップ、映画

教師：Why did Glass write faked reports? Glass は 3 年間うその articles を書き続けた。

Are you able to tell which articles are true and which ones are faked articles?

教師と生徒との関係：Dialogue, Exchange Communication

当時に、教師はクラスをうまくコントロールしている

映画のプレビューのクリップを見せる

Fake photo reviews Kim rumors Photo of Kim John & Military officers

Original vs. faked (Shadow, horizontal line)

Application questions を書かせて答えを書かせる

Chinese editor resigns over fake Tibet photos

教師：Why do they do this? *Tourism, Eco-friendly

Reuters photos from Beirut (Lebanon)?

*地域のダメージを大事にしているように見えている

Article “Why Democracy Needs Investigative Journalism?”

Package #12 Investigative Reporting

Media Ethics

“Just War Theory”

生徒は世界地図を持っており、学んだ場所を地図で確認してマークする

感想

Secondary School と異なり、生徒の思考レベルはより高く、自分の考えを明確に持ち、意見を言えるようになっている。ブレストができる。

General Q&A

シンガポールの子供は、Thinking out of box が必要

多くの子供は、never go through hardship。シンガポールという国はプロテクティブ。

資料：Anglo Chinese Junior College General Paper Instructional Programme 2012

生徒：3 High level subjects, 2 Low level subjects を選択

General Paper

6.5 hours/per week

1st Year 5.5 hours

Must pass English exam (@End of Primary School & Secondary School) -> Otherwise they can't enter next school

32 teachers ->General Paper

850 students/each level

文学書を読んだり劇や映画を見て critical thinking するわけではなく、テーマ毎に出される article などを使って、読書力、文章作成能力、思考力、発言力を鍛える

Written focus

Essay は 2,3 週間毎にアサイメントを出す

テキストはない

5 週間毎に新しいテーマを取り上げる (各学校の Department で決める)

Lesson sharing time for each theme with other teachers

Internal training for new teachers

Home teacher 制 (生徒 20-25 名) home teacher 35 名

この学校は、朝、Assembly, Prayer, Devotional がある

40 weeks/1 year. 4 terms 10 weeks/term

J1, J2: Education, Politics, Economics

Sister schools (Primary School, Secondary School) Primary School 卒業生の 60%が姉妹校の Secondary School に進学する)

Majority of students go to University

Level A exam: Cambridge GCA level test: internationally accredited exam

Pori-technical (3 years) ->could go to University

90%+ schools are funded by the MOE

Laptop PC (homework is done by PC)

感想

この Junior College は、規模は大きくないが、クラスの選択自由度が高いので、とても人気がある。特に、fine arts とスポーツ (ラグビー) は有名。あくまでも趣味でこれらのクラスを取る生徒が多く、大学でその道に進むわけではない。大学ではビジネスなどのコースを選ぶ。

考察

・シンガポールの教育について

シンガポールの各学校には、ミッション、ビジョン、バリューがあり、国が目指す方向と合致している。教育の目的が非常に明確で、教育によって、子どもがリーダーシップを発揮できる能力を身につけることが最大の目標になっている。その中でも、語学と数学の教育が重視されていると感じる。

シンガポールの学校では、語学教育に多くの時間を費やしている。特に、文章作成、リーディング、思考力を鍛えられている。テキストを使わないことで、教師の作成したオリジナル（NIT で作成したカリキュラムや資料が元になっている）の資料を使って授業を進めている。各学校で資料の内容は異なり、functional 中心となっているが政治、経済、文化、メディアなどの複数のジャンルの文書を読ませている。一方で、文学書をクラスで取り上げることはなく、年間数冊読ませるだけにとどまっている。

シンガポールでは、全国統一試験の英語の試験で、進学する学校が指定するレベルに達しなければ進学できない仕組みになっている。学校では、生徒が試験に合格するための授業を組んでいるため、日本よりはましであるが、受験主導型のカリキュラムになっている。しかし、日本よりは、時間的に余裕があり、実際試験勉強をクラスですることとはなく、基本的には色々なジャンルのトピックを取り上げて、読み・書き・話し合いができるようになっている。特に、生徒の文章表現力は長けおり、一見日本にいる中学生・高校生らしい生徒でも、文章を書くと卓越した文章が書ける。文章作成、ディベートの力は間違いなく強化される。

上述した通り、シンガポールの生徒は、英語力が身に付くようなカリキュラムで能力を伸ばされている。カリキュラムはシステムティックに作られていて、包括的。文学的な素養を身に付けるというよりは、より、実務に適した言語能力が身に付くように考慮されている。一方で、O Level と A Level の試験を念頭にカリキュラムが作られているため、創造性を伸ばす仕組みは不足する。まず、時間的に余裕がない点と、芸術や文学から学べるものを十分吸収できていない。これは、シンガポールがより知的産業にシフトしている中で、これに適した能力を備えられるような教育システムに将来的に変更を加えないといけないと思われる。

・シンガポールの教師について

シンガポールでは、教師の質が教育レベルを高められることを信じており、教師のトレーニングも重視している。教育学部に入学すると、毎月 2,000SD 支給され、卒業後は 10 週

間、NIE（National Institute of Education）でトレーニングを受け、学校に配属される。赴任先でもトレーニングを受ける。3年間辞めなければ、支給された費用はMOEに返却しなくても良い。教師は年間100時間、自己開発のために校外の研修等に参加しても良く、就業時間内であれば、他の教師が授業をカバーし、費用はMOEが持つようになっている。

・雇用の多様性と環境設定

シンガポールの教師は雇用体系において3つのタイプに分かれる。フルタイム（割合と少ない）。アドジャンクト（パート教師。教師のディプロマを持っているが、他にビジネスをしている）。アライアント（教師のディプロマの持っていない。教師のアシスタントをする）。雇用条件が異なる人が一緒に働いている。必要なリソースを多様な雇用形態に分けて雇用すること、それぞれの雇用形態で雇われている教師が十分に専門性と個性を活かしながら教育に携わっていることがこの国の強みになっていると感じる。

シンガポールでは、教師のレベルを高める工夫とともに、教師にできるだけ最高のパフォーマンスを発揮できるように環境を整えている。その一例が教師のための休憩室（ラウンジ）である。学校によってその規模や内容は異なるが、空港のビジネスラウンジ並みのところもある。ビリヤード、マッサージチェア、冷蔵庫、電子レンジなどが完備されている。また、様々な宗教があるため、宗教（ヒンズー教・イスラム教は豚肉を食べないため）毎に電子レンジが備えられている。昼食時間になると、ラウンジでゆっくりと食事をとり、お茶を飲み、ときにはビリヤードをしたり、マッサージ器を使ってリラックスするなど、憩いの場が提供されている。

・教育環境

シンガポールでは、Primary, Secondary, Junior Collegeとも、各クラスにプロジェクター、ホワイトボードが完備されている。教師は各自ノートパソコンが与えられており、たいいていの場合、教師はPCを使って授業を進め、YouTube、などを使ってAudio, Visual教材多用している。Reading資料は事前に配布されることが多い。Primary Schoolは、one lesson 30分。2 lesson 通しでするクラスもある。Secondary Schoolは1時間。Junior Collegeは80分（日本の大学並み）。教師は、生徒が授業に飽きないように工夫しており、日本みたいに教科書を読んで進めるようなことはない。実例を見せて、概念を説明し、Principleを使って、応用問題を解かせる形式を多用しているため、生徒が考えて応用する能力を高めることができる。各学校にはPC教室があり、教室にはノートPCが生徒分揃えられている。学校ごとに教科専門のソフトを購入して、活用。生徒は自身のIDとパスワードを持っていて、情報を入力してシステムに入ることができ、生徒の課題進捗は、教師が一括して見ることができる。場所によっては、Primary School levelでMacノートPCを使用して授業をしている。また、図書室、ITルームも完備して、エンジニアが常駐し、I-padを使用

して授業を進めるクラスもある。Audio visual の授業を進めるために、各教師は IT スペシャリストに教材作成を依頼することができる。このように、シンガポールでは、日本の大学またはそれ以上のレベルでハイテクを駆使した授業がなされ、生徒の IT リテラシーは高い。各教科の基本的な考え方、法則、原則を理解し、社会に応用する能力を子どもの頃から育成されていると感じる。

・多様な進路選択

制度上は、一般的には Primary School (6 年)、Secondary School (4 年)、Junior College(2 年)と分かれている。Secondary School と Junior College の最終年度末に全国統一試験がある。Secondary School 最終学年では O Level Exam、Junior College 最終学年では A Level Exam を受ける。しかし、Secondary School と Junior College が統合した学校もあり、その場合は、O Level の試験を受けない。多くは、校内の試験で Junior College レベルの学校に進学するが、ドロップアウトする生徒は、別のパスに進む。5 ページのシンガポールの教育体系図で分かるように、生徒の興味関心、やる気、能力によって生徒は進路を柔軟に決めることができるようになっており、そのことが社会的にも認知され受容されていることが重要なポイントだと考える。

・日本の課題と今後の展開

シンガポールは日本と比較して国土が狭く、人口も少ないということで、教育制度や国家戦略をスピーディーに展開することができるという利点があると考えても、シンガポールの教育を国家戦略と合わせて学校を運営している点、教師の質の高さ、充実した教育環境、教育にかけるリソース、などは日本の教育には不足している点である。

今回は、言語教育の現場を調査したが、日本に関して言えば、これまでの語学教育をゼロベースで考え直した方が良い思いが強く沸き起こった。シンガポールの中学、高校の学生の言語能力レベルは高い。それは、Primary School の時から言葉の使い方、文法、表現手法、など言葉を使って考え、行動に結びつけるために必要な基本スキルを徹底して学んでいるからである。それは、単に“国語テスト”でよい点数を取るためのスキルではなく、人と交わり、コミュニケーションを交わし、社会の中で生きていくための能力を築くことに他ならない。社会で、ものごとを進めていくためには、「言葉」を介したコミュニケーションが必須となる。言葉を操る作業、その継続として人と人がつながり、その延長線上に生計を営むビジネスが生まれる。

国や地域の教育を鑑みたとき、教育のあり方は国家の進むべき戦略と合致させる、あるいは、少なくともどのような「人」を育てるかのビジョンを事前に考えて、それを可能にするカリキュラム開発と環境整備が必要になる。それらが決まらずに局所的な変更を試みて

も大きな変化は期待できない。近年、日本はしきりに、グローバル人材の必要性を謳っている。グローバルで戦える人材、グローバルでリーダーシップを発揮できる人材の養成が日本にとって最大のチャレンジだと緊急意識を煽られているようだ。しかし、その前に、まず日本がやらなければならないことは、将来、日本をどのような国にしたいのかという長期的な展望を考えて国民に示すことだと考える。国家戦略が明確でないから、教育制度も水草のように揺らいでいる状態だ。

シンガポールの教育制度にも難点はあるものの、少なくとも国家戦略と教育システムを合致させる点、思い切った教育体系の設置、教育レベルの底上げ、教育環境の整備はシンガポールの例から学べるところであると考ええる。

参考図書

冊子

Education in Singapore Ministry of Education

学校案内

Anglo-Chinese Junior College, Fairfield Methodist Schools, St. Margaret's School,
Nanyang Girls' High School

教科書

“Flights of Fancy 1” A Journey Through Poetry, Prose and Drama. Teacher's Guide (For
lower secondary students)

Grammar Workbook (For lower secondary students)

Comprehension (For lower secondary students)

N(T) Level English

N(A) Level English

O Level English

Textbook Secondary 1 Normal (Technical)

Textbook Secondary 2 Normal (Academic)

Textbook Secondary 3 Express

この調査は、平成 21 年度選定「私立大学研究基盤形成支援事業」ビジネスクリエーターが
創るインテリジェント・デザイン型企業・組織と人材育成手法の実践的研究の一環として
実施した。